

# 半月湖

ガイドマップ

「自然と山を愛する人へ」



LAKE HANGETSU GUIDE MAP

Publishing by : Kucchan Tourist Association

## ふうげつ 風穴とは

山の斜面から天然の冷たい風が吹き出す、という、暑い日の登山にはありがたい現象が起きる場所です。

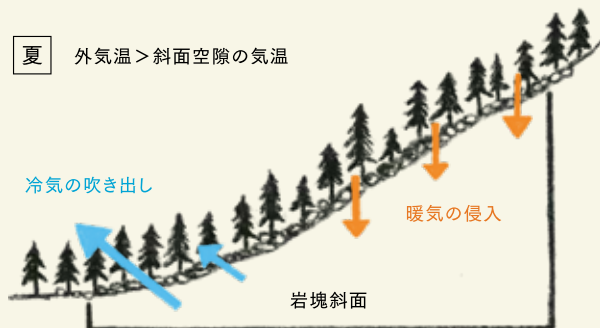
風穴は火山岩からできた高低差のある岩塊斜面(崖<sup>がいのすい</sup>錐)下部に見られることが多く、そのしくみは、岩塊斜面上部の穴から流入した空気が地中のトンネル(空隙<sup>くうげき</sup>)で冷やされながら下方に流れ、斜面下部の穴から冷風として吐出されることで起きます。吹き出す風は外気温に対して相対的な低温傾向を示し、特に早春～初夏はより低温となっています。

全国各地に点在する大規模な風穴では、古来より天然の冷蔵庫として食料の保存や漬物の貯蔵・養蚕などに利用されてきた所もあります。また、冷風口付近ではその低温環境から、周囲の植生帯よりも寒冷な植生帯の植物相や昆虫相が成立することが多いことも特徴です。

この風穴はさほど大きな規模ではないとはいえ、山麓であるにも関わらず亜高山の植生が小面積で見られます。

歩きだして数十分、小休止がてら、この天然クーラーで涼んでみてはいかがでしょうか。

夏 外気温 > 斜面空隙の気温

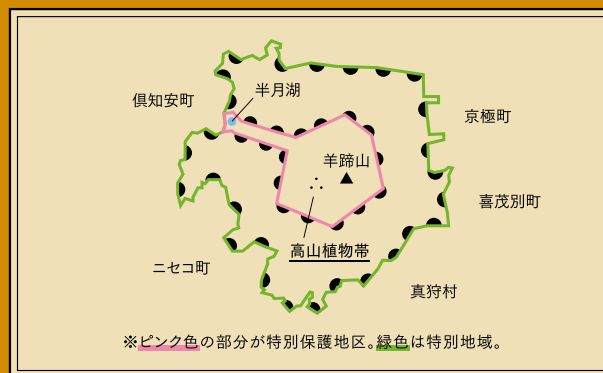


ヒカリゴケ

## 半月湖・風穴の散策路を気持ちよく楽しむために

### 1. 第一級の保護地

『後方羊蹄山山頂域および半月湖にかけての登山道両端300mの高山植物帯』の羊蹄山の植生は、大正10年(1921年)に国指定天然記念物「後方羊蹄山の高山植物帯」として指定されています。更に、この範囲は支笏洞爺国立公園の特別保護地区にも指定されています。特別保護地区内では、全ての動植物の採取と損傷が禁止されています。



### 2. 気持ちよく楽しむためのマナー

- ・ストック……植生保護のためにゴムキャップをお付けください。
- ・踏みつけ…花や植物を踏みつけないようにお願いします。
- ・採取……半月湖を含む比羅夫・俱知安登山道は国立公園の特別保護地区になります。全ての動植物採取と損傷は禁止されています。
- ・盗掘……見つけた場合は直接声をかけずに、警察に電話してください。
- ・ゴミ……ゴミは持ち帰るようにしましょう。

### 3. トイレ

半月湖駐車場(下部)と半月湖野営場(上部)にトイレがあります。  
ヒント: 歩き出す前にトイレで身軽になりましょう。

### 4. 安全

- ・春から秋にかけてツタウルシに注意してください。かぶれます。
  - ・夏から秋にかけてはスズメバチに注意してください。
  - ・秋はツチハンミョウを触らないようにしてください。
- ヒント: 裏ページ下段の危険な生き物を参照してください。

それでは、皆さん安全に楽しんで下さい!

| 連絡先 | 俱知安警察:0136-22-0110  
| 発行 | 一般社団法人 俱知安観光協会:0136-22-3344  
| 監修 | ニセコ羊蹄山岳会・俱知安風土館

「自然と山を愛する人へ」

# 半月湖 ガイドマップ



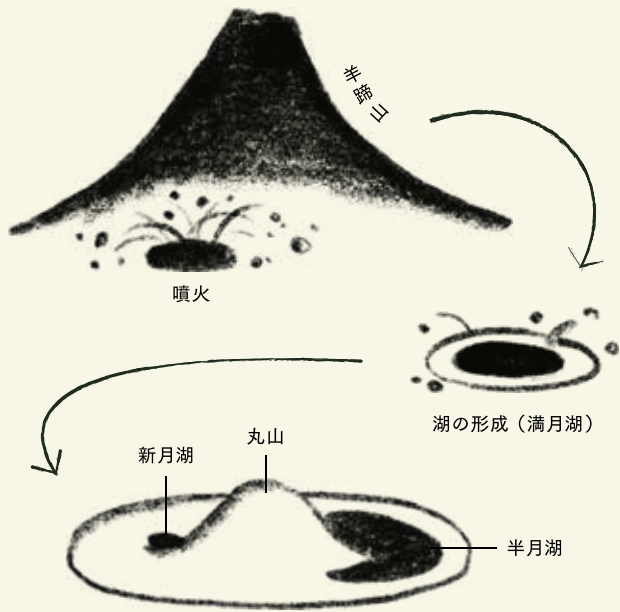
LAKE HANGETSU GUIDE MAP

Publishing by : Kucchan Tourist Association

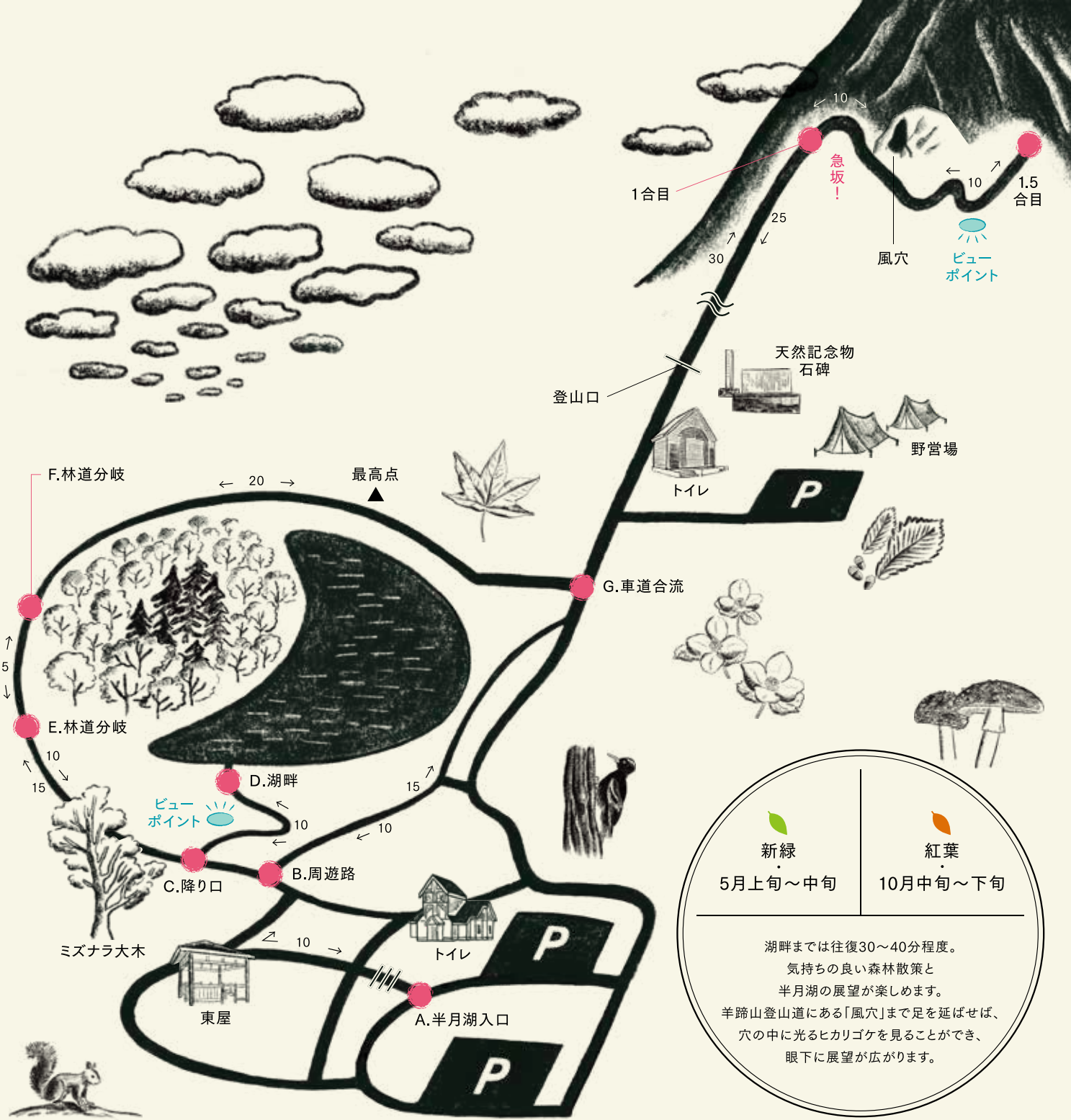
## 半月湖の成り立ち



半月湖は面積約1.3平方km、長さ320m(東西)、幅150m(南北)、平均水深4m、最深部18.2mの湖ですが、どのように成り立ってきたのでしょうか。

- 1 羊蹄山麓で起きた火山活動によって山体の一部が吹き飛ばされ、爆裂火口(半月湖のもとになる窪地)が生まれました。
- 2 爆裂火口に雨水や雪解け水、地下からの湧水がたまり、湖が形成されました。この段階では直径約550m、深さ60m~100mほどのほぼ円形の湖だったようです。
- 3 湖底から押し出された溶岩によって、湖の中ほどに溶岩円頂丘(丸山)が現れました。このことで円形の湖は半月湖と新月湖の二つの湖へと姿を変えました。



現在の新月湖:  
 新月湖は大正3年の調査時、長径75m、短径20mほどの大きさでしたが、土砂や枯れ葉によって徐々に埋もれ、昭和60年頃には長径40m、短径7~8mまで縮小、現在ではその姿を見ることはできません。



 新緑 5月上旬~中旬	 紅葉 10月中旬~下旬
湖畔までは往復30~40分程度。 気持ちの良い森林散策と 半月湖の展望が楽しめます。 羊蹄山登山道にある「風穴」まで足を延ばせば、 穴の中に光るヒカリゴケを見ることができ、 眼下に展望が広がります。	

春の花



エゾエンゴサク

ニリンソウ



シラネアオイ

ベニバナイチヤクソウ

夏の花



クルマユリ

ヨツバヒヨドリ



エゾアジサイ

エゾトリカブト

秋の花



エゾノコンギク

キンミズヒキ



ミヤマアキノキリンソウ

ミゾソバ

半月湖を代表する植物



イタヤカエデ(アカイタヤ)

高さ20mにもなる落葉広葉樹です。倶知安町の町木としても親しまれています。半月湖周辺では、姿種のアキヤが多く見られます。アキヤの若葉は紅紫色をしており、新緑の時期に春紅葉として季節を彩ります。紅葉時期は黄色～橙色に染まります。



ミズナラ

高さ20mにもなる落葉広葉樹です。ミズナラはイタヤカエデと並んで周辺の森の主役となっています。半月湖畔へ降りる道の分岐に見られる巨木もミズナラで、森のシンボルツリーとなっています。ちなみに半月湖周辺の森で落ちている「どんぐり」はミズナラの実です。



トドマツ



ハウチワカエデ

半月湖の動物



スジエビ

豊かな水を湛える半月湖は、地表を流れる川のない羊蹄山において貴重な水辺環境といえます。ここには様々な水生生物が生息しますが、中でもよく見られるのがスジエビという肉食性甲殻類です。湖畔までたどり着いたら、水の中を覗いてみてはいかがでしょうか。



オニクワガタ



センコガネ



エゾオマルハナバチ



エゾリス

半月湖の鳥類



クロジ

明るい落葉広葉樹林とササ林床を好む鳥(センダイムシクイ、コルリやウグイスなど)が多く、山地性の鳥(クロジなど)もよく観察できるのが特徴です。クロジの姿が見られることは稀ですが、「ホイーチョイチョイ」という独特の声が聞かれるかもしれません。



キビタキ



センダイムシクイ



アカゲラ



クマゲラ

半月湖の菌類



ベニテングタケ(毒)

カンパ属やモミ属、トウヒ属の樹木と共生しているキノコなので、それらの樹木の周りの地面で、9月中旬～10月中旬に見られます。赤い傘に白い鱗片が美しいキノコですが、毒があります。



ニガクリタケ(猛毒)



タマゴタケ

ミズナラやトドマツの共生菌です。テングタケ科のキノコの中では珍しく、食用にできるキノコですが、国立公園内に位置する半月湖での採取はできません。写真を撮るだけにおきましょう。8月下旬から10月上旬にかけて見られます。



ムキタケ

半月湖・羊蹄山の観光と自然豊かな道

原生林に覆われたクッチャン原野に、初めて入植者が入ったのは明治25年でした。12年後の明治37年には北鉄線(現在のJR函館～小樽間)が開通し、同年結成された蝦夷富士登山会は、後方羊蹄山にもっと登山客を誘致する目的で、新たに西口(比羅夫・倶知安コース)を開削しました。翌明治38年は本格的な羊蹄山登山の夜明けの年となりました。この当時は入山料20銭、金剛杖30銭、石室宿泊50銭でした。また、水・ビール・サイダー・弁当なども販売していたそうです。その後、監督官庁で案内人の資格試験制度が施行されると、すぐに会からも4名の登録がありました。この様にしては観光振興を積極的に行ない、現在の羊蹄山登山観光の基礎を作りました。ところで、蝦夷富士登山会の開削した登山道は

自然を楽しんでもらえるように心配りをした道でした。登山道はまず半月湖畔を通り、ついで風穴の下を通り、点在する名木に沿って付けられました。現在六合目にあるタコガンビ(ダケカンパの枝がタコの足のようにも動き出しそうな名木)も立派なものです。そしてハイマツのトンネルを抜けると高山植物の咲き誇る山頂部に出ます。さまざまな自然を味わえ、さらに植生の垂直分布を体感できるこの登山道は学術的にも価値があると評価され、大正10年には国の天然記念物に指定されました。観光振興から始まった登山道の開削でしたが、自然そのものが大変貴重であるということが認められたのでした。先見性のある倶知安の先達が残した比羅夫・倶知安コースとその自然を大切に利用し、いつまでも半月湖・羊蹄山の恵みを楽しんでいきたいものですね。

危険な生き物



ツタウルシ

ツル性の植物で、まわりの植物に巻き付いて成長しますが、若い個体は地面に匍匐して生えていることも。葉や樹液にウルシオールとラッコールという油脂性の成分を含み、皮膚につくと強いかぶれを引き起こします。紅葉はとっても美しいですが、要注意です。



スズメバチ類

木の根元や樹洞、茂みの中などに巣を作ります。もしも出会ってしまった時には、姿勢を低くして、来た道をゆっくり戻ること。刺されてしまった場合は、冷たい水や緑茶などで患部を絞りながら洗い流し、すぐに病院に行くことをおすすめします。



ツチハンミョウ類

青い金属光沢をもつ甲虫で、8～10月ごろに現れます。刺激を感じると脚の関節からカンタリジンといわれる毒液を出します。これに触れると水ぶくれなどを起こすため、注意が必要です。幼虫期は、マルハナバチの仲間の巣に寄生して成長します。